改訂：2026 年 11 月 18 日

OCI 上の Cisco ISE インスタンスのアイデンティティとアクセスの設定

OCI でのパスワードの回復とリセット

以下のタスクを使用して、Cisco ISE 仮想マシンのパスワードをリセットします。必要なタスクを選択し、手順に従います。

シリアルコンソールを介した Cisco ISE GUI パスワードのリセット

OCI のシリアルコンソールを介して Cisco ISE GUI パスワードをリセットするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 OCI にログインし、[コンピューティング（Compute）] > [インスタンス（Instances）] の順に選択します。

ステップ 2 インスタンスのリストから、パスワードを変更する必要があるインスタンスを選択します。

ステップ 3 [リソース（Resources）] > [コンソール接続（Console connection）] の順に選択します。

ステップ 4 [Cloud Shell接続の起動（Launch Cloud Shell connection）] をクリックします。

新しい画面に Oracle Cloud Shell が表示されます。画面が黒い場合は、**Enter** を押してログインプロンプトを表示します。

ステップ 5 シリアルコンソールにログインします。

シリアルコンソールにログインするには、インスタンスのインストール時に設定された元のパスワードを使用する必要があります。OCI はこのパスワード値をマスクします。このパスワードを覚えていない場合は、「パスワードの回復」セクションを参照してください。

ステップ 6 **application reset-passwd ise iseadmin** コマンドを使用して、iseadmin アカウントの新しい Cisco ISE GUI パスワードを設定します。

OCI での新しい公開キーの作成

このタスクにより、追加のキーペアをリポジトリに追加できます。新しい公開キーによって Cisco ISE インスタンスの設定時に作成したキーペアが置き換えられることはありません。

ステップ 1 OCI で新しい公開キーを作成します。キーペアの作成を参照してください。

ステップ 2 OCI シリアルコンソールにログインします。

ステップ 3 公開キーを保存するための新しいリポジトリを作成します。『Creating a Repository』[英語] を参照してください。

CLI を介してアクセスできるリポジトリがすでにある場合は、このステップをスキップします。

ステップ 4 次のコマンドを使用して新しい公開キーをインポートします。

crypto key import <public key filename> repository <repository name>

インポートが完了すると、SSH と新しい公開キーを使用して Cisco ISE にログインできます。

パスワードの回復

OCI には Cisco ISE のパスワード回復のメカニズムはありません。新しい Cisco ISE インスタンスを作成し、設定データのバックアップと復元を実行する必要が生じる場合があります。

OCI スタック変数を編集すると、Cisco ISE インスタンスが削除され、新しいインスタンスが作成されます。設定や構成は保持されません。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。